

# 令和2年度第1回熊本県立美術館協議会

【開催日時】 令和2年10月30日（金）午前10時00分～11時30分

【開催場所】 熊本県立美術館本館 文化交流室

【出席者】 協議会委員12名 事務局職員 文化課

【主な議事】 熊本県立美術館運営ビジョン（案）について

【議事概要】 1 開会 2 会長挨拶 3 副会長の指名について 4 議長挨拶 5 議事 6 閉会

協議会委員名簿、資料、概要等は別添（資料1、資料2）のとおり

---

## 1 開会

（事務局）

資料の確認。

開催中展示会チラシ等も配布。

傍聴者はなし。

（事務局）

定刻となりましたので、ただいまより第1回熊本県立美術館協議会を開催いたします。協議会に入る前に、館長の宮尾より一言ご挨拶申し上げます。

---

## 2 館長挨拶

（館長）

今年はコロナ禍の中で大変な状況の中、協議会にお集りいただき感謝申し上げます。また、「令和2年7月豪雨災害」について、改めまして、亡くなられた方々に謹んで哀悼の意を表しますとともに、被害に遭われた皆様に心からお見舞いを申し上げます。

本日は「美術館の運営ビジョン」について皆さまに御意見をお伺いしたいという趣旨でお集まりいただきました。今年度から4年間のものを想定しています。

以前に作成したミュージアムプランから年数がたっており、この間に、グローバル化や予想を上回る少子高齢社会の進行、熊本地震後の熊本城一帯の集客力の低下、さらには新型コロナウイルス感染症への対応など、社会情勢が大きく変化しました。

また、当館は展示会の性格上、シニアの利用者が多いため、次の時代を担う子どもたちの豊かな感性を育てるためにどのようにすべきかということの主眼のひとつとしています。

本日は皆さまの忌憚のないご意見をよろしく申し上げます。

（事務局）

今回からの新委員2名をご紹介します。異動等の関係で熊本博物館長の田端文一委員

と、県議会教育警察常任委員長の橋口海平委員を新たにお迎えしています。

委員名簿につきましては、協議会資料の2ページをご覧ください。

議事につきましては、規定により会長が行うこととなっておりますので、これより会長に進行をお願いします。

中村会長よろしく申し上げます。

---

### 3 会長挨拶

(会長)

本年度もよろしく申し上げます。委員の先生方にはこの状況下でお集りいただき感謝申し上げます。

本日はビジョンという、先に向けての大きな議論をしていきますが、コロナ禍で大変な状況の中、さらに先をみすえ美術館運営を考えていく必要があります。ひとつは、子どもたちのために、美術館がどのようにあるべきなのかということも含め、議論できればと思います。

- ・副会長の選出について条例により会長が指名。
- ・博物館の田端館長を指名。 一同同意。 副会長あいさつ。

(会議の公開・非公開の審議)

会議の公開・非公開について、本日の議題内容には、非公開とすべき内容がないので、すべて公開ということで全員異議なし。

すべて公開として、議事進行。

---

### 4 議事 熊本県立美術館運営ビジョン（案）について

(事務局)

- ・事務局から資料に沿って説明
  - 資料1 美術館運営ビジョン案の基本方針の背景
  - 資料2 美術館ビジョンの策定スケジュール
  - 資料3 国の動きⅠ
  - 資料4 国の動きⅡ
- 別冊 美術館運営ビジョン案

---

#### 委員質疑 1

(会長)

ビジョン案について、パーツごとに質疑応答を受けたいと思います。まずは、資料の1ページから2ページまでの内容について。

【はじめにービジョン策定に当たって】

【Ⅰ ビジョンの策定の背景】

【Ⅱ ビジョン実施推進期間】

【Ⅲ 基本理念と基本方針】

(質疑応答なし)

---

委員質疑

---

(会長)

次に資料の2ページから4ページの上部、下記の内容について質疑をお願いします。

【基本方針1 展覧会・教育普及・交流促進について】

(委員)

3つの展覧会を見ましたが、今まで美術品を楽しんだことのない子どもたちにもわかりやすい解説でよかったと思います。

教育普及で、子どもたちに焦点をあわせて未来を考えるという点は良いと思います。

SNS関係がこれからの課題。学校であれば、教科書と教材、教員との間をつなぐ取組が大切。例えば解説であったり、見せ方であったり、いろいろな交流をどうするかといった、学校の先生や美術館で行う仕掛けが必要です。

(モダンアートニッポン！展の)麗子の語り口調についてごく一部に否定的な意見もありましたが、アンケートの大半は「良かった」という意見だったとのこと。こうした、自分の身の丈で見れる工夫はありがたいと感じました。

SNSの中にもそうした工夫が入ると、さらに集客が望めるのではないのでしょうか。

(委員)

with コロナ時代の新しい生活様式という項に、インターネット美術館の推進が挙がっていますが、with コロナ時代でなくとも教育普及活動として入れた方が良いのではないのでしょうか。

来年から小中学校すべて、1人1台のタブレット支給がはじまりますが、インターネット美術館等のデジタル化を通じて小中学校との連携を図ってほしいと思います。

(委員)

インターネット美術館の推進に期待しています。インターネット美術館は広報に役立つと思いますが、具体的に美術館が目指すところ、イメージを説明していただければ。

(事務局)

インターネットについてのご質問にお答えします。

新型コロナ感染症拡大の際に、美術館ではインターネットを利用した「おうちで美術館」を実施。動画の配信や学芸員イチオシの美術館の「イッピン」紹介、ネット上からダウンロードできるぬりえの配信を行いました。

美術館の所蔵品データを新しいデータベースに移行し、来週11月からテスト版で300

点少々公開します。来年からは美術館の全収蔵品 4460 件余りのデータを、画像付きでインターネット上で公開します。

同時に、美術館の主だった所蔵品の解説をスマートフォン上でみることができる「ポケット学芸員」というシステムを立ち上げる予定です。

美術館の所蔵品のデータや解説を少しずつネットで公開するとともに、来館してもっと詳しく知りたい利用者にはアプリを使っての鑑賞が可能となるよう考えています。

(館長)

説明の補足となりますが、美術館はネット活用の情報発信がやや遅れていました。

コロナ休館中にインターネットを活用した「おうちで美術館」などの事業実施に取り組みました。

先ほど、with コロナだけの問題ではないというご指摘がありました。これからも引き続きインターネットを活用した活動を充実させていきたいと考えています。

(委員)

おやこ無料デーなど子どもに対する活動が良いと思います。直接施設などに情報が届いていると、私たちもイベントを選択するのに役にたつと感じました。

環境と施設設備のところですが、熊本県は災害続きなので、災害に対することがこの中に盛り込まれていてもよいかもしれません。例えば災害の時に果たす役割など。

また、こうした状況では、若い芸術家が厳しい状況に置かれるので、そういった人たちの窓口なども考えてほしいと思います。

(委員)

7月4日の豪雨水害にあって、身の回りの文化財が泥まみれになりました。自然災害は今後大きくなってくると思うので、災害に対する考え方も盛り込んでほしい。

文化財を今後に残していくというのも、子どもたちのためにつながるのではないかと思います。

今、人吉・球磨の観光に神社・仏閣を含めた取り組みを行っています。そのためにも、災害に対しての取り組みを考えていただければ。

保管している文化財の保管状況がどうなっているのか。田舎には古くて貴重なものがありますが、セキュリティ面の問題もあります。

以前、美術館で人吉・球磨を取り上げた図録を作っていたいただいた時、文化財をデータ化してもらい、もし盗難にあっても取り戻すチャンスがあるように、基盤を作っていたいただいたことがありました。

今後、県民の財産としての文化財の保護も是非やっていただき、災害と文化財の両方を子どもが学べるような取り組みを、是非考えていただきたいと思います。

(委員)

今はコロナ禍の状況で、美術館の存在が心の拠りどころとなっています。子どもたち

にとって道を示す、憩いの場のような存在であってほしいと思います。

美術館は来るだけではなく、ワークショップなどで手を動かすことにより、心にインプットするような場所であると思います。前回来た時は、チラシを使った紙バックがとてもよかった。終わった展覧会のチラシですが、(自分で紙バックを)作る時にしっかり見るので、こんなに美しかったのかと感ずることがありました。こうしたワークショップをもっと実施していただければと思います。

また、鑑賞体験活動について、今まで具体的にどういったことをされてきたのか、教えていただきたい。

#### (事務局)

教育普及活動については、スクールミュージアムとして、昨年は県内の地域ごとに14校を選び、浜田知明やシャガールの作品を美術館から持っていき、学校に1日だけ展示しています。そこで授業を行い、地元の子どもや保護者の方に広く見ていただいています。

ミュージアムバス事業については、今年度はコロナのために断念しましたが、来年度からは開始したいと考えています。これは、美術館に来ていただくために、学校にバスを走らせるという事業です。

美術館での子ども向けの事業として、子ども美術館を従来から実施しています。これは、小中学生を対象にしたワークショップで、今後も続けていきますが、同時に未就学児童とその保護者を対象にした「家族でアート」という新しい事業を、来年から立ち上げる予定です。

出前事業については、学芸員や教育普及担当の教諭が、要望に応じて小中高に出向き、授業を展開するというもので、今年度も続けています。

遠隔事業についてはこれからの課題ですが、ネット環境を使った授業・企画を今後考えていきたいと思っています。

文化財については、県の文化課を中心として、7月豪雨の災害後すぐに文化財レスキューが立ち上がり、現在も事業が続いています。可能な限り美術館職員もレスキューに参加しています。

文化財の盗難についてですが、美術館には開館以来、県内の様々な文化財の調書や写真の集積があります。平成18年度の仏像盗難の際は、美術館から警察に写真提供をし、取り戻せたものも多くあり、今後も大切な活動だと考えています。

#### (委員)

コロナに対する美術館の取り組みには、改めて御礼申し上げます。

美術館の対応は、いい意味で対応スタンスが変わっておらず、しっかりされていると思います。来館者への説明も丁寧にされていると感じます。

インターネット関連ですが、モダンアートニッポン展の時は、展覧会場の準備から撤収までの状況をネットでアップされており、見入ってしまいました。作品だけでなく、展覧会の前後の活動がアップされていると、それだけで子どもたちの教材になるし、大

人にとってもためになると思います。

(会長)

基本方針 4 の項まで踏み込んだ内容となりませんが、他の基本方針ともリンクしている部分も多くあるので、いったん次の基本方針に移って議論をお願いします。

---

委員質疑

---

(会長)

次に資料の 4 ページから 5 ページまで、下記の内容について質疑をお願いします。  
【基本方針 2 美術品の収集、保管、研究について】

(質疑なし)

---

委員質疑

---

(会長)

次に資料の 5 ページ、【基本方針 3 地域の活性化について】 質疑をお願いします。

(委員)

基本方針 2 の収集、保管、研究について、活性化とも絡んでくるとは思いますが、地域の宝と言われるものが県外に散逸することを防ぐため、近年どのようなものを収集されているのか伺えれば。

地元にはいいものがあるというのが、地域の活性化にもつながると思うので。

(事務局)

県立美術館は総合美術館を標榜しており、熊本ゆかりの古美術から、近代、現代にいたるまでの作品を含めた美術品の収集、西洋美術に関しても体系的な収集を目指しています。

地元作家の作品に関しても、可能な限り目配りをしていきたいと思えます。

美術品の収集については、(作品が売りに出るなどの情報が) あらかじめわかるものではなく、突然オファーがあるので、できるだけ臨機に対応するために、「美術品取得基金」が設けられています。

最近では、熊本出身の日本画家・堅山南風の屏風絵が京都にあることが分かり、購入することができました。また、熊本出身の洋画家・野田英夫の油彩画を、一昨年に購入しています。

購入物件のほか、コレクターを含め様々な方から、美術品寄贈の申し出があります。このうち、美術館で展示が可能と判断されたものを、収集委員会に諮った上で、寄贈を受けています。

昨年度収集した作品は、現在展示をしています。非常に幅広い分野を寄贈いただき、これからは熊本県の宝として大切に保管し、公開していきたいと考えています。

(委員)

熊本城周辺を車でまわると、城や加藤神社の案内に比べ、県立美術館の案内が少ないと感じます。また、雨がひどく降った時不便であるとか、駐輪場がどこにあるのかわかりにくい。レストランはありますが、ちょっと休憩した時に水の自販機があれば良いと思います。

美術館の案内では、二の丸駐車場・三の丸駐車場を併記していますが、二の丸駐車場の方が近い。三の丸駐車場は坂を登らなければならないので、少し時間がかかります。

来館者が増えれば増えるほど、不便であったという声も増えるので、観光施設としての活動のひとつとして、来館者にやさしい施設を目指してほしいと思います。

また、熊本城天守閣がいよいよオープンするので、天守閣と連続しての共通した観覧券などがあると良いのでは。

(事務局)

サインについては、私共も課題があると思っています。市や熊本城総合事務所にもお願いしています。駐輪場（のサイン）については、今後検討したいと思います。

自販機の導入は検討しており、入札までいったのですが、コロナの影響で今年は見送りたいという連絡が業者からありました。コロナが収束した来年度以降に、再度進めていきたいと考えています。

いただいたご意見に対応するには、美術館の力だけでは及ばない点もありますので、市にもお願いをしながら進めていきたいと思っています。

(委員)

昨年度、御船町の恐竜博物館で、「絵のお医者さんがやってきた」という展覧会があり、熊本出身の岩井先生の修復の展覧会でしたが、修復の現場も見ることができました。

文化財を守るという立場で活躍する人や場面を、見たり知ったりするのは初めての体験で勉強になりました。守る人がいて、修復を待っている文化財があるということを啓発するのも大事ではないかと思っています。

(委員)

今回のビジョンが、子どもたちを重要視する視点で組まれている点は素晴らしいと感じました。

子どもたちはもちろんですが、ターゲットをもっと広くとり、ここは熊本城内にあるという立場を活かすことは絶対重要だと思います。熊本城、二の丸、美術館という形で、回廊のように広くつなぎ、一体化する取り組みをさらに進めていただきたい。

そのために、美術館にも熊本城に関する資料を展示するコーナーをもうけたり、人を城から誘導する工夫が必要だと思います。熊本市との連携が重要になってきますが、この辺一帯に人を巡回させることに力を入れる必要があると思います。

ユニークベニューについて、来年、再来年は熊本でも大きな学会等がありますので、

美術館でレセプションを開くようなことを考えていただければ。

子どもたちを呼び込むための楽しいイベントがあれば、NHK 子供向け番組とのコラボレーションが他県の美術館であり、子どもたちがあふれていたのも、熊本県立美術館でもできたら楽しいと思います。例えば公園でイベントをして、そのまま美術館に来た時に、子どもたちが楽しめる展覧会やワークショップを開いている、ということがあればよいのではと思います。

---

#### 委員質疑

---

(会長)

次に資料の6ページ、【基本方針4 環境・施設設備】について質疑をお願いします。

(委員)

エレベーターが1基しか設置されていないのは、動線からいうと、帰る時にまた戻って乗らないといけないのは大変不便に感じます。難しいかもしれませんが、できれば2基あれば。

QR やモバイル決済はまだまだ知見されていないので問題がありますが、九州国立博物館では飲食もショップもすべてクレジットが利用できました。クレジットカードくらいは使えるようになればとても良いと思います。

他の施設との関連でいえば、こちらで熊本城のチケットが購入できるとか、熊本城でも美術館のチケットが購入できるとか、そうしたインフラの整備が進めば良いと思います。

キャッシュレスはあった方が、利用者は安心できると思います。いろいろ難しい事情があるとは思いますが、検討いただければありがたいと思います。

(事務局)

キャッシュレスはたくさんのお客様から要望があり、今年予算で、キャッシュレスをどうすれば導入できるかの調査中です。まず、Wi-Fi が整っていないといけないこと、県の会計上の問題で、県に直接収入が入るため、そこにカード会社が入るにはどうすればいいかなど、県の直営施設ならではの問題がクリアできない状況にあります。来年度いっぱい導入できればと考えています。

熊本城との共通券についても、たくさんのお客様から要望をいただいています。これについても来年度に問題を解決して、再来年度から導入できる仕組みを考えていきたいと思っています。

(委員)

キャッシュレス決裁について、Wi-Fi や QR 決裁を入れると導入が大変になります。他県で使えるところは、(Wi-Fi などの環境でなく)、ライン(電話回線やFAX回線)の方が安全で間違いがないところがありますので、そちらもご検討いただければ。Wi-Fi は環境を整えなければならず、大事になってしまうので。既にWi-Fi の環境を整える計



画が進んでいるのであれば別ですが。

(事務局)

説明が足りませんでした。Wi-Fiについてはインターネット美術館との関係で考えています。例えばスマホで解説をみることができるといった仕組みを、導入しようとしているところです。展示会場はWi-Fi環境が弱いという状況ですので、併せて整備を考えています。

(会長)

最後に、基本方針1から4までの全体を通して、何かご意見があれば。

(委員)

県内の幼稚園、保育園、小学校、中学校、高校も合わせて、美術館と連携した教育活動を進めてきました。一番子どもの近くにいる私たちが何をすべきか、考えています。

冒頭のビジョンの中にある、「次代を担う子どもたちの感性」がとても大事だということを感じています。

コロナの中で、6月に学校が再開し、子どもたちの変化は思ったよりありませんでしたが、9月からいろんな問題が出てきています。どうして子どもたちの心が病んでいるのか、タブレットを使うことによる裏面の部分などが出てきています。

一方、二の丸広場で幼稚園の子どもが走っている姿もあり、市内の子どものほとんどは二の丸広場に遊びにきたことがあるはず。ところが、美術館に来る小中学生の数は、学校の中でも1%に満たない状況です。

今日は京陵中学の生徒が来て活動をしていることをうれしく感じました。話を聞くと、熊本城と博物館と美術館を巡りながら課題解決をしていくということのようで、これは美術の評価ではなく、総合的な学習の一環として取り組んでいるということでした。美術・図工の評価を越えて、全体的な活動の中で取り組んでいかなければということで、美術・図工の研究会の中だけでは、課題が解決できない状況にあります。

普及活動は、美術館がどうするかという問題と同時に、現場からどんなことをしてほしいのか、どんなニーズがあるのか、あげていかなければならないと感じました。

次回、1月の協議会までに、現場の声を集約しようと思います。

スクールミュージアムや美術館での授業もやったことがありますが、若い20代、30代の先生はあまりご存じない状況で、責任を感じます。教育関係者ということで、現場の声を次回までにできればまとめて、できれば事前にお渡ししたいと思います。

美術館で毎年開催する美術・図工研究会の展示会も、今年は中止せざるを得ない状況にあります。分館で開催している子どもの美術展は、1週間で千人を超える来場者があります。ほとんどが土日、300人～500人。密集するため、今年はコロナ対策で中止しました。そうした展示会の在り方も、ウェブ上でしようかという案もあります。それも含めて、私たちの研究会の事業、学校現場の状況を整理して、お持ちしたいと思います。

(会長)

よろしくお願いします。

最後に、副会長から何かありましたら、よろしくお願いします。

(副会長)

まず、インターネット美術館の推進については、熊本博物館でもインターネットを通じての情報発信が遅れていました。コロナの影響を受けて、遅ればせながらインターネットを介した情報発信の必要性を感じています。

今は、公式ツイッターとYouTubeチャンネルで発信しています。こうした発信は一方通行が多いのですが、インターネットを活用する中で、熊本市内の学校の中では、ズームを使った授業を実施しています。これは、学校現場からの提案によるもので、ズームを使って学芸員に授業をしてほしいという話がありました。今は試行的に2回、近くの小学校でやっていて、非常に面白い反応がありました。

美術館と博物館では少し意味合いが違ってもかもしれませんが、ズームを使った双方向での遠隔地授業は、今後のwithコロナ、アフターコロナの中では有効だと考えています。

次に熊本城周辺文化観光施設としての活動について、周辺施設としての立地を活かすのはマストだと考えています。来年度の予算は固まっているので、来年度に大掛かりな共通券をつくるのは補正予算以外では難しい状況です。ただ、熊本城と美術館との共通券は必要だと感じています。

行政の縦割りや県と市の垣根があるのでハードルは高いと思いますが、最終的な目標は一緒ですので、どこかの段階できちんと目標を定め、話し合いをすることが大事だと思います。部署がそれぞれ分かれており美術館から個別に相談することが難しいと思うので、調整やつなぎが必要であれば、博物館の方に相談いただければこちらからつなぐことも可能です。

共通券については、今現在は市の3館共通券があるので、これを4館共通券として入れることもできるかもしれません。ただ、チケット代はどうか、分配金をどうするのかという会計上の問題もあり、難しいかもしれませんが、クリアしようと思えばできる問題だと思います。どの程度調整が必要なのか、やってみなければわからないので、再来年度に向けて準備していくことが必要だと考えます。

(会長)

それぞれの立場から様々なご意見を頂戴できたと思います。

それでは、本日の議事はこれまでといたします。議事の円滑な進行にご協力をいただきありがとうございます。

それでは、会議の進行を事務局にお返しします。

(館長)

本日は各方面からのご意見、ご質問をいただきありがとうございます。

次回は1月になるとと思いますが、皆様の日程等をご相談し、協議していただければと

考えています。

人口の減少や価値観の多様化で、右肩上がりに数字が上がることはないと思います。その中で美術館の役割として、展覧会を見てもらうほかに、美術館という空間を楽しんでいただくということがあります。お茶だけ飲んだり、建築を楽しんでいただいたりなど。そうした意味で、今後の目標として、「美術館に来てくださったお客様」というところで目標値を立てていきたいと考えています。

また、数値も大事ですが、今年から全展覧会でアンケートをとっています。その中で、生のお客様の声を聞き、満足度を向上させていくことを考えています。量プラス質を上げていくことがこれからの目指す姿だと感じています。

ハードの面は悩ましい問題です。どこまで折り合いをつけていくかということに尽きると思います。

お忙しい中ありがとうございました。

(事務局)

本日はありがとうございました。

次回協議会日程は、令和3年1月に開催します。日程調整はあらためて相談させていただきます。